

「生協の（未来の）あり方研究会」第二次共著

# 協同による社会デザイン

「だれ一人取り残さない社会」（国連の目標 SDGs の理念）は、どのようにすれば実現できるのか。そのために生協はいかなる貢献ができ、そしてどう変わらなければならないのか。

特定非営利活動法人「地域と協同の研究センター」に設置する「生協の（未来の）あり方研究会」で共同研究を進め、2013年に共著「未来を拓く協同の社会システム」を発刊しました。そしてさらなる現代社会の課題の深刻化を前に、未来社会を切り拓く生協運動の存在価値をさらに発揮して欲しいという期待から、具体的な提言を立論構成したいと、この第2次の共著「協同による社会デザイン」を刊行するにいたしました。これからの生協のあり方を展望する一助としていただければ幸いです。



発行日：2019年4月25日 定価：本体3,600円+税

編者：小木曾洋司 向井清史 兼子厚之

発行者：柿崎均 発行所：株式会社日本経済評論社

お申込みは当研究センターへ

地域と協同の研究センター共同購読価格

**3,168円**（本体2,880円+税 送料・払込手数料込み）

## 目次

### 序 章 社会の変容と協同の社会システム

- I. 協同による社会構想を 小木曾 洋司  
II. 文明史的転換期の生協運動への期待 兼子 厚之

## 第1部 新しい生協像への視座

- 第1章 地域社会の当事者性を創る ー生協が拓くコミュニケーションの役割ー 小木曾 洋司  
第2章 「他者志向的事业体」として生協を見直す 向井 清史  
第3章 地域福祉型生協の展開と可能性 ー協同組合は社会運動を担えるのかー 朝倉 美江  
第4章 「持続可能な消費」によるフェアトレード 近藤 充代  
第5章 格差社会における生協事業 ー生協は変わる社会と消費にどう向き合うかー 加賀美 太記  
第6章 時代の要請に応える生協運動への期待と提言 兼子 厚之

## 第2部 東海における生協の今

- I. 「愛知の生協のグランドデザイン」から未来を考える 磯村 隆樹  
II. “身近な”協同（協働）によるまちづくりをめざして 牛田 清博  
III. 組織の変化と今後の生協のあり方 森下 智  
IV. 生協運動に夢とロマンを 河原 洋之  
V. 「地域・社会的生協組合」をめざして 向井 忍

### 補論 協同組合と文化 ー「協同組合の文化」考ー

あとがき 中川 雄一郎

## 執筆者紹介（\*編者）

- \*小木曾 洋司（おぎそ ようし）中京大学 現代社会学部教授 地域社会学  
\*向井 清史（むかい きよし）名古屋市立大学大学院経済学研究科特任教授 非営利経済論、地域政策  
朝倉 美江（あさくら みえ）金城学院大学 人間科学部教授 社会福祉学  
近藤 充代（こんどう みちよ）日本福祉大学 経済学部教授 社会法学、民法学  
加賀美 太記（かがみ たいき）就実大学 経営学部准教授 経営学  
\*兼子 厚之（かねこ あつゆき）元地域と協同の研究センター理事  
磯村 隆樹（いそむら たかき）生活協同組合東海コープ事業連合 常務理事  
牛田 清博（うした きよひろ）元生活協同組合コープあいち 執行役員  
森下 智（もりした さとし）生活協同組合コープみえ 執行役員  
河原 洋之（かわはら ひろゆき）生活協同組合コープぎふ 参与  
向井 忍（むかい しのぶ）生活協同組合コープあいち 理事長補佐  
中川 雄一郎（なかがわ ゆういちろう）明治大学名誉教授

※所属・肩書きは発行当時

上記の執筆者のうち、中川雄一郎氏および加賀美太記氏は本書発刊において特別執筆者として研究会に加わり執筆いただきました。その他の執筆者は「地域と協同の研究センター」の「生協の（未来の）あり方研究会」メンバーです。